

上ノ國八幡宮が道の有形文化財に指定

3月31日、本町の有形文化財である「上ノ國八幡宮本殿」が、北海道の指定有形文化財に指定されました。

上ノ國八幡宮本殿は1699年建築と推定され、道内に現存する神社建築としては最古とみられています。

こうした背景から、江戸時代前期の形態をとどめ、保存状態がよく、道内の神社本殿として歴史的価値が非常に高いことが評価され、今回の指定に繋がったとのことです。

これをうけ、4月22日に1日限定で本殿が一般公開され、町内外から65名の方々が八幡宮を訪れました。

そして、今回の指定について、上ノ國八幡宮の松崎辰彦宮司にお話を伺ったところ、「受け継がれてきた300年以上の歴史は、地域とともに歩んできた歴史でもあります。これが一番大切な歴史の側面です」と話され、これからの地域の八幡宮として後世に受け継いでいければとのことでした。



勝山館跡が続日本100名城に

4月6日、本町の国指定史跡「勝山館跡」が、歴史研究者や愛好家らでつくる日本城郭協会により、「続日本100名城」に選定されました。

2006年に発表された『日本100名城』は、多くの雑誌やガイドブックで紹介され、全国に点在する各城でスタンプリーマーも行われるなど、いわゆる「城ブーム」の火付け役になったもので、現在も各地の城郭を多くの観光客が訪れています。

今回の選定において勝山館は、15世紀に本町を拠点とした武将「武田信廣」の居城で、当時、蝦夷の政治・軍事・経済の中心だった歴史的背景などから選ばれたものと思われ、このほか徳川家康が過ごした浜松城（浜松市）や、映画「のぼうの城」の舞台にもなった忍城（埼玉県）なども選ばれています。勝山館には、夷王山まで続く散策路が整備されており、この機会に訪れてみてはいかがでしょうか。



ふるさと応援団 東京かみのくに会

3月25日、関東在住の町出身者で組織される東京かみのくに会（倉谷久会長）の総会・懇親会が東京都台東区のホテルで行われ、東京かみのくに会が、町職員など約80名が参加しました。今年で20回を迎えた東京かみのくに会総会では、これまでの会の歩みが倉谷会長の挨拶で触れられ、会の仲間とともに、これからはふるさと寄附などで故郷を応援したいと話していました。

総会終了後の懇親会では、本町特産品の販売や町内各地区の空撮動画の上映、歌手活動を行う会員による故郷の情景を歌った歌唱披露、各出身中学校別による校歌披露、全員で踊った上ノ國音頭など、様々な催しを通して、故郷を思う雰囲気ななか、交流が深められた様子でした。



農閑期に学ぶ！知識と技術

農閑期の営農情報取得を目的とした、冬期営農講座と農業関連制度説明会が相次いで開催され、多くの生産者が参加しました。

3月17日に行われた冬期営農講座では、種苗メーカーと檜山農業普及センターから講師を招き、「キヌサヤエンドウ・サヤインゲンの栽培のポイント」についての講演が行われ、同月23日には、国・道・町の助成制度等を利用するための総合的な説明会が開催されました。

参加者からは、「サヤインゲンの栽培方法について、初めての講演だったので勉強になった」「補助事業などを有効活用して安定生産に繋げたい」といった意見が出るなど、春に向けて、積極的に知識を吸収し、準備を進めている様子でした。

